

高岡の図書館

第111号

2025. 9. 1

編集・発行 高岡市立中央図書館（〒933-0023 富山県高岡市末広町1-7） TEL 0766 (20) 1818 FAX 0766 (20) 1819

混迷の時代に道筋を示す上杉鷹山の叡智

富山県生涯学習カレッジ 高岡地区センター所長
富山県立志貴野高校校長 北村 宜也

今、VUCAの時代と言われ、先を見通せない状況となっています。地球規模での環境問題、急速な技術革新に伴う社会構造の変化、そして絶え間ない国際情勢の緊張など、今この瞬間にも複雑化し、様々な課題に直面しています。

このような時代だからこそ、改めて歴史の叡智を学ぶことで何かをつかむことができるのではないかと、そしてリーダーとはかくあるべきではないかと、先輩教員から「上杉鷹山リーダーの要諦 佃律志著」を贈られ、読んでみることとなりました。

江戸時代中期、破綻寸前の米沢藩（今の山形県）を再生させた不世出の名君、上杉鷹山は、多くの日本人にとって、困難に立ち向かい民衆と共に未来を築いた理想のリーダー像として記憶されています。しかし、その偉業の陰には、想像を絶する苦難と、それを乗り越える相当の覚悟、時代を超えて私たちの胸を打つ普遍的なリーダーシップの要諦が隠されています。

17歳の上杉鷹山が継いだ米沢藩は、先代までの放漫経営で財政破綻し「国家存亡の危機」にあったのです。借金は膨れ上がり、領民は重税と貧困に喘ぎ、藩士も無気力な八方塞がりの状況でした。この絶望的な状況から、藩再生という大事業に着手します。

この改革は、まず、藩主鷹山自らが質素儉約を徹底する「率先垂範」から始まりました。しかし、旧体制に固執する重臣の抵抗、連続する天災、そして長年の貧困に疲労困憊した領民の心に希望を灯すことの難しさに直面しましたが、決して諦めなかったのです。

鷹山のリーダーシップの根幹には、徹底した「民本位」の思想と「民の父母」としての強い責任感がありました。有名な「為せば成る」の言葉は、領民の幸福を願う切実な思いと断固たる決意の表れだとも言えます。

また、鷹山は身分を問わず有能な人材を登用し、藩校「興譲館」を開校し、人材育成にも注力しました。産業振興、治水事業、生活困窮者への手厚い支援など、領民の生活安定と未来への希望を目指す政策を推し進めるとともに、何よりも領民との対話を大切に、不可能と言われた絶望的な状況から、藩政を立て直すことに成功しました。

現代においても、私たちは、組織運営、地域社会の活性化、個人の生き方などにおいて、様々な壁に直面することがあります。鷹山の徹底した利他の精神、困難に屈しない不屈の意志、そして未来を見据えたビジョンは、現代のリーダーたちが直面する課題を乗り越えるための、貴重な示唆に富んでおり、彼の言葉や行動の一つ一つには、組織を動かし、人々を導き、そして未来を創造するためのヒントが散りばめられています。

私自身、上杉鷹山の叡智に触れることは、様々な課題を乗り越え、確かな一歩を踏み出すための揺るぎない指針となるはずだと信じ、彼の不屈の精神を心に刻み、微力ながらも希望ある将来を創造していきたいと思っています。

そして、鷹山が示した「愛と勇気」のリーダーシップこそが、混迷の時代を照らし、より良い未来を築くための一筋の光明となるに違いないと確信しています。

祝！高岡市・福岡町合併 20 周年

旧福岡町担当者の思い出話

高岡市立福岡図書館長 江尻 紀子

はじめに

旧高岡市と旧福岡町が合併したのは平成 17 年 11 月 1 日のことです。本年は、この合併からちょうど 20 周年を迎える記念すべき年となります。

本年 4 月、私は福岡図書館長を拝命し、7 年ぶりに図書館業務に携わることとなりました。福岡図書館は、私にとって非常に思い出深い場所です。合併後の 3 年間に加え、旧福岡町時代には合併直前の 3 年 7 か月間も勤務しており、数々の経験を積ませていただきました。

合併 20 周年という節目の年にこの図書館へ異動したことも、何かの縁ではないかと思っていたところ、旧福岡町側の担当者として、合併当時を振り返る文章を執筆してほしい、との依頼をいただきました。

正直なところ、記憶が曖昧な部分も少なくありませんが、一担当者の思い出話としてお付き合いいただければ幸いです。

1 合併前の福岡町立図書館

福岡町立図書館は、昭和 35 年 3 月農事センターにて開館しました。その後、旧町役場跡に 2 回転居し、平成 9 年 7 月に新設された「福岡町総合市民センター」（現在の名称は「ふくおか総合文化センター」）の 2 階に入居しました。当時の特色ある事業として「ブックマラソン」が挙げられます。この事業は乳幼児から中学生までを対象とし、4 月から 8 月までの期間に各自 50 冊の読破を目標とするもので、達成者には完走証明書と記念品が贈呈されました。夏休み期間中には、熱心に本を探す子どもたちの姿が見られたものです。この他にも、おはなし会や講座、展示など幅広い年代の方々を対象とした事業を実施し、地域住民に広く利用されてきました。

2 平成の大合併

平成 11 年から平成 20 年にかけて進められた日本全国の市町村の統廃合、いわゆる「平成の大合併」を皆さんは覚えていらっしゃるでしょうか。これにより多くの市町村が合併し、日本の市町村数は大幅に減少しました。平成初めには 3,200 以上あった市町村数が、合併後には約 1,700 まで減少したのです。

富山県内の市町村数も大きく変化し、35 から 15 へと半分以上に減少しました。呉西地区では「5 市 9 町 5 村」が「6 市」に再編され、町や

村といった小規模な自治体は姿を消しています。なお、富山県の市町村数「15」が全国都道府県中最少であることは、意外と知られていない事実かもしれません。

3 旧福岡町の合併先が旧高岡市に決定

前述の「平成の大合併」が進められていた頃、全国の市町村は「合併するのか、しないのか、合併するならどの市町村とするのか」という選択を迫られていました。富山県内でも、県から複数の合併パターンが提示され、旧福岡町の合併先候補として複数の市が挙がっていましたが、最終的には「高岡市と福岡町」の合併が決定。

平成 16 年 5 月 6 日には、地方自治法および合併特例法に基づき「高岡市・福岡町合併協議会」が設置され、以降、新市の名称やシンボルマークをはじめ、様々な項目について各部門での協議が進められることとなりました。

4 合併協議に向けて

図書館でも合併に向けた協議が行われ、旧高岡市側の担当者である中央図書館職員の方と定期的に打合せを行いました。自治体の規模を考えると、旧高岡市側の運用に合わせるのが自然であると（今なら）感じるのですが、「合併するのであれば改善されて当然であり、改悪は避けるべきだ」という信念のもと、いくつかの項目について存続を強く主張した記憶があります。

5 協議項目

(1) 図書館システム

合併後の新市の図書館では、利用者が本を借りた際、市内のどの図書館でも返却できるようにするため、蔵書や利用者のデータを共有する新市図書館のネットワーク構築が必須でした。幸いなことに、高岡市立図書館と福岡町立図書館の図書館システムは、機器メーカーと保守業者が共通していました。このため、異なる機器メーカーのシステムを使用していた場合よりもスムーズにデータの移行を行うことができました。

しかし、問題が全く無かったわけではありません。両館のパッケージソフトは異なっており、福岡町立図書館がバーコードで資料管理を行うシステムを採用していたのに対し、高岡市立図書館では資料に IC タグを貼付し、貸出や返却の際にはその IC タグを読み込ませることで処理を行う IC システムを採用していました。こ

の相違により、福岡町立図書館でも IC タグによる管理が可能となるよう、システム統合に向けた準備が必要になったのです。

具体的には、合併準備のための休館作業中に次の2つの作業を実施しました。「①福岡町立図書館のシステムを IC システムに統合し、新市図書館ネットワークに接続」「②開架の資料約3万7,000冊に IC タグを貼付し、貼付した IC タグに資料情報を書き込む」という作業です。この作業には非常勤職員を複数名雇用して対応し、それぞれ図書館内で資料を運ぶ人、IC タグを貼る人、システムで資料情報を読み込む人という形で分担して取り組みました。

作業効率については、3～4人で1台のパソコンを使用し、1日に約1,000冊の処理が可能という試算が記載された資料が残っています。しかし、実際に何人のスタッフが何日かけて作業したのかは私の記憶にも記録にも残っていません。ただ、作業当時は余裕がなく、焦りながら進めていたことだけを覚えています。

(2) 開館日

図書館では、開館日や開館時間が定められています。高岡市立図書館と福岡町立図書館の開館日に関する協議の結果、合併前の体制を維持することとなりました。ちなみに福岡町立図書館は複合施設内にあるため、休館日は施設全体の休館日に準じて設定されていました。これは運用管理上、施設全体が閉館している日に図書館だけを単独で開館することが難しかったことによるものです。

(3) 貸出冊数・貸出日数

合併前の貸出冊数は、以下のとおりでした。

○高岡市立図書館

一般図書	10冊	15日間
雑誌	3冊	15日間
録音図書	1点	15日間
CD/DVD	3点	8日間

○福岡町立図書館

図書（紙芝居を含む）	5冊	15日間
雑誌	3冊	15日間
視聴覚資料	2点	7日間

合併後も利用者サービスが低下しないよう、貸出冊数が多く、貸出期間が長い高岡市立図書

館の基準を採用して統合が進められました。

(4) 運営管理

福岡町立図書館では、嘱託の館長1名、町職員2名、非常勤職員1名、シルバー人材センターからの業務委託による職員1名という体制で日々の業務が行われていました。一方、高岡市立図書館においては、中央図書館が平成16年4月に移転オープンした際、窓口業務の委託が開始されました。

この窓口業務委託は中央図書館に限られており、伏木、戸出、中田の地域館では非常勤職員によって窓口業務が行われていたため、福岡町立図書館では合併時に運営体制の変更はありませんでした。新市誕生後、地域館での窓口業務委託化が一斉に実施されたのは平成23年4月のことです。

おわりに

合併に際して思い出したことをいくつか挙げてきましたが、私の公務員人生において、この市町村合併は忘れられない経験となりました。

平成17年11月の合併時には図書館から市長部局へ異動となり、その後、再び福岡図書館で勤務することになったのは平成25年4月のこと。さらに3年後の平成28年4月には中央図書館へ異動し、続く2年後には再び市長部局へ異動となりました。もう二度と図書館に関わる機会はないかもしれないと感じていましたが、再びご縁をいただけたことは、「今だからこそできることがある」という思ひ召しだったのかもしれない。

合併によって新市が誕生してから20年が経ち、社会情勢や私たちの日々の生活も大きく様変わりしました。デジタル化が進む中で、紙の本や雑誌はその発行数・販売数を縮小し、それに伴い図書館を取り巻く環境も変化しています。この変化は、図書館に関する統計データにも如実に表れており、中学生から20代までの若者の利用が大きく減少していることを数字が示しています。次世代を担う若者の利用を増やす取り組みは、図書館にとって今後の大きな課題となるでしょう。

本から得られる感動やわくわくする気持ちを、一人でも多くの人に届けられるよう、これからも励んでいきたいと思います。

以下 平成17年11月1日発行「高岡の図書館」第78号から抜粋

お知らせ

11月1日 新「高岡市」誕生とともに高岡市立図書館が5館になりました。

中央図書館、伏木図書館、戸出図書館、中田図書館のほかに福岡図書館が仲間入りしました。

『たかおか生涯学習カード』は、5館共通で利用することができます。

※このカードのデザインは、平成17年11月当時のものです。



ふるさと情報コーナー

高岡関係資料情報

令和5年度に発行された図書、雑誌及び新聞に掲載された高岡関係資料のうち、図書館で把握できた文献の一部を紹介いたします。配列は資料の種類（図書・雑誌・新聞）順とし、出版年月の順に上から記し、左から資料名・論題名・執筆者名（敬称略）・巻号数の順に記載しました。

高岡市立横田公民館開館10周年記念誌 (高岡市立横田公民館編刊 令和5年4月)

つなぐ 100年企業5代目社長の葛藤と挑戦

(能作千春著 幻冬舎メディアコンサルティング刊 令和5年4月)

山岳風来、自然と文化 心の旅路(なんぞろげ)

(泉治夫, 泉恵子著 令和5年4、5月)

高岡の歴史 断章、ウミウシと植物観察(なんぞろげ)

(泉治夫著 令和5年5月)

万葉植物の歌鑑賞事典

(坂本信幸監修 垣見修司ほか著 和泉書院刊 令和5年5月)

高岡市立西条公民館開館10周年記念誌

(高岡市立西条公民館編刊 令和5年6月)

浮世絵に描かれた加越能 佐伯コレクションの世界

(高岡市立博物館編刊 令和5年7月)

47 都道府県・城下町百科

(野間晴雄編著 山近博義ほか著 丸善出版刊 令和5年10月)

南弘先生 人と業績(続々)

(南弘先生顕彰会編刊 令和5年10月)

環の会活動報告書 2023

(環の会編刊 令和6年1月)

藤子不二雄®メモリアルBOX ベスト&未収録コレクション (藤子不二雄®著 小学館刊 令和6年1月)

高岡市立博物館年報 第37号

(高岡市立博物館編刊 令和6年2月)

高岡市史料集 第35集 長崎家資料より

(高岡市立中央図書館編刊 令和6年3月)

高岡市万葉歴史館紀要 第34号

(高岡市万葉歴史館編刊 令和6年3月)

町並み保存の記録 高岡市重要伝統的建造物群保存地区23 (高岡市教育委員会編刊 令和6年3月)

大人の居酒屋旅

(太田和彦著 新潮社刊 令和6年3月)

マイライフーこれが私の生きる道ーclover farm代表 青沼光さん (VITA 135号 令和5年12月)

とやま花とみどり探訪 とやまの花壇 ～高岡市立野栄町『ふれあいロード』～

(VITA 135号 令和5年12月)

勝興寺に国宝指定書 保存・活用へ決意新た

(北日本新聞 令和5年5月1日) ほか

鉄舟ゆかりの資料調査 専門家、国泰寺保管の位牌や書

(北日本新聞 令和5年5月11日) ほか

世界79人の夢一冊に、高岡出身 宗玄さん、単行本出版「ドリームクエスト夢をたずねて世界を巡る旅」

(北日本新聞 令和5年5月18日) ほか

高峰譲吉別邸 日米親善に活用、松楓殿資料 米国から届く、邦人建築家収集 遺族、高岡市に寄贈

(北日本新聞 令和5年7月1日) ほか

高岡の魅力まとめる ものづくり、まち歩き るるぶ作成「るるぶ特別編集 高岡」

(富山新聞 令和5年10月20日) ほか

高岡築城許可 書状発見 高岡市立博物館 2代将軍秀忠「早々に開始命じて結構」着工待つ利長宛て

(北日本新聞 令和5年11月22日) ほか

「たかおか電子図書館」を開始 どこでもシリーズ

(富山新聞 令和5年11月22日)

富山県立図書館ホームページ「とやまの本」及び「県内記事情報検索」より

||||| 調査相談の窓口から |||||

…… おたずねくださいQ&A (伏木図書館) ……

図書館では、利用者の皆さまから寄せられる様々な質問や相談に対して、回答したり解決のための資料紹介をしています。できる限りの資料を提示して、皆さまのご質問に応えたいと思っております。どうぞお気軽に声をかけてください。

レファレンスの例

Q：『伏木郷土史年譜』「1955年（昭和30年）6月19日、八十八ヶ所正法寺で大伴家持像の入魂式と万葉歌「玉くしげ二上山の」碑の除幕式を行った」の新聞記事が見たい。（富山新聞）

A：富山新聞の1955年6月19日以降の記事を探したが見つからず、「奈良県立万葉文化館」のホームページなどで検索すると、該当の歌碑が正法寺に設置されたのは、昭和31年と記載があり。

1956年（昭和31年）の新聞を調べると、6月12日と6月19日に関連記事が見つかった。（除幕式が行われたのは、昭和31年6月17日）

参考資料

「富山新聞 1956年6月12日」

「富山新聞 1956年6月19日」

・万葉歌碑が載っている資料

「越中万葉歌碑めぐり」編者 高岡市万葉歴史館館長 大熊喜一郎 1992

「越中万葉をあるく」編者 高岡市万葉歴史館 2015

Q：令和6年1月1日能登半島地震の液状化について調べている。

伏木の埋め立て等に関する資料があれば見せていただきたい。

A：・郷土資料から埋め立てに関する資料を探したところ、

①「越中伏木地理志稿」付録の地図に埋立地の記載がある。

・伏木の地形・地質に関する以下の資料をさがして、調査した。

②「越中国府 今をつなぐもの」

③「みなと伏木 100年のあゆみ」

④「伏木郷土史年譜」

⑤「二上の歴史」

⑥「越中国分寺とその周辺の遺跡調査報告」

・伏木地区の用・排水路に関する資料をさがしたところ

①に記載あり…藤井家文書「伏木町略図」

参考資料

「越中伏木地理志稿」著者 正和勝之助 1991

「越中国府 今をつなぐもの」著者 正和勝之助 1991

「みなと伏木 100年のあゆみ」発行 伏木港開港 100周年記念事業実行委員会 1999

「伏木郷土史年譜」編者 京谷準一 1995

「二上の歴史」編集発行 二上郷土資料編纂委員会 1977.

「越中国分寺とその周辺の遺跡調査報告書」編集 越中国分寺とその周辺の遺跡調査団 1967

Q：『青桐』（木崎さと子著）の舞台となったのはどこか？

A：「木崎さと子」は小学校から高校までを高岡で過ごした。郷土資料から著者に関する資料を探した。

「富山県図書館研究集録第17号」に、「木崎さと子著述目録・参考文献目録」が掲載されており、その中から「青桐」に関連がある資料を探した。

①「富山新聞 1985年1月」…芥川賞受賞関連の記載があり、舞台は高岡市とある。

②「富山県文芸展」（T906/3/3）…舞台は北陸のT市とある。

③「とやま文学」（T29/10/23）舞台は高岡市とある。

参考資料

「富山新聞 1985年1月」

「富山県文芸展」編集 第3回富山県文芸展実行委員会 1992

「とやま文学」編集 富山県芸術文化協会 2005

（布子 雅子記）

令和7年度 子供の読書活動優秀実践校・園・図書館・団体（個人） 中央図書館が文部科学大臣表彰を受賞しました

文部科学省では、平成14年度から国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高める活動を推進するため、特色ある優れた実践を行っている学校・園、図書館、団体・個人に対し、大臣表彰を行っています。

令和7年度は「子供の読書活動優秀実践校・園・図書館・団体（個人）」として、全国で262の学校・園、図書館、団体（個人）が表彰されています。過去には平成17年に旧福岡町立図書館、同18年に中央図書館、令和2年に戸出図書館が受賞しており、中央図書館は2度目の受賞となります。

中央図書館では日頃からおはなし会を実施し、子どもたちに絵本やお話の楽しさを伝えています。児童を図書館に招待する「図書館ツアー」や、図書館職員が学校を訪問する「わくわくブックトーク」など、学校と連携して子どもたちの図書館利用促進に努めています。

また、ヤングアダルトサービスの充実として、中高生の興味・関心を喚起するワークショップ等を実施したり、学習用端末で電子書籍サービスを利用できる環境づくりを進めています。これらの取り組みが評価され、「令和7年度 子供の読書活動優秀実践校・園・図書館・団体（個人）文部科学大臣表彰」を受賞しました。

今後も、日常的に多くの本に親しむ機会や新しい本との出会いを提供できるよう努めてまいります。ぜひ中央図書館へお越しください。

土曜おはなし会の様子



中央図書館では「おはなしの部屋」で、乳・幼児から小学生を対象に読み聞かせ等を毎日行っています。

図書館ツアーの様子



市内小学生を招待し、施設や資料、利用方法等を説明しています。

中高生向けワークショップの様子



中高生を対象に、キャラクターデザインに挑戦するワークショップを実施しています。



電子書籍サービスを利用できるIDを各小学校に配布することにより、小学生が各自の学習用端末で閲覧できるようにしています。



たかおか
電子図書館

富 山 県 と 地 震

令和6年(2024年)1月1日に発生した能登半島地震は、石川県だけでなく富山県やその周辺地域にも大きな被害を与えた。

高岡市を含め富山県は、自然災害の中でも水害が多く発生した地域であり、富山県内を震源とする地震は少なかった。しかし、過去に地震災害が発生していなかったわけではない。

今回は、富山県(越中)で発生した地震災害について振り返り、その中で「天正13年(1585年)の地震」及び「安政5年(1858年)の地震」について着目する。

【記録に残る地震】

富山県(越中)は地震が少ない地域とされていたが、富山県内及び近辺を震源とする地震によって被害が発生した記録が史料には残されている。

震源が富山県内及び近辺と推定され、かつ大きな被害をもたらした地震は、「貞観5年(863年)の地震」、「天正13年(1585年)の地震」、「安政5年(1858年)の地震」が挙げられる。

また、震源が富山県の遠方であっても、安政年間(1850年代)に発生した大規模地震(東海・南海地震、江戸地震等)では富山県でも揺れを感じ、人々は地震に恐怖した。

【天正13年(1585年)の地震】

この地震は、中部地方〔富山県(越中)から岐阜県北部(飛騨)、岐阜県南部(美濃)、愛知県(尾張)、三重県(伊勢)まで〕を襲う大規模な地震であった。この地震の規模はマグニチュード8.0程と推定されている。

富山県では、砺波平野(高岡市福岡町木舟)の木舟城が被災し、城主前田秀継夫妻、家臣や城下町の住民ら多数の人が圧死した。余震が数日にわたって続いたため、寺に集まった市井の人々は、宗派を問わず念仏を唱え地震が収まることを願った。

また、岐阜県北部では、帰雲山が崩落し、帰雲城及び城下町が山津波に飲み込まれ埋没した。帰雲城主内ヶ島氏をはじめ、家臣や城下町の住民ら大多数の人々が圧死し、死者は500人以上と推定されている。

さらに、この地震で庄川の上流で山崩れが発生し流れを塞ぎ止めた。付近の人々(砺波市庄川町金屋地区周辺)は、塞ぎ止められた水があふれ出て村を襲うことを恐れ、安居山(南砺市安居)や増山(砺波市増山)等へ避難した。やがて塞ぎ止められた水は山脈を突き

破り砺波平野に流れ出した。このとき水流が自然に2つに分かれ、東に流れた水は中田川に入り現在の庄川筋となり、西に流れた水は中村川及び千保川に入り分流した。

【安政5年(1858年)の地震】

この地震は、跡津川断層帯(富山県南部から岐阜県北部に分布する断層)によって引き起こされたとされ、地震の規模はマグニチュード7.0程と推定されている。

この地震も、富山県(越中)と岐阜県北部(飛騨)を中心に広い範囲で被害が発生した。家屋が倒壊し、地割れの亀裂から水が噴出した等、地震の被害が各地で発生した。

高岡市(高岡町)では、御旅屋町から下関町までの間に大規模な地割れが発生した。また、伏木地区でも地割れが発生し、さらにそこから水や砂が噴出したと記録されている。

なお、この地震で富山市(富山町)は深刻な水害の被害を受けている。この地震で鳶山(立山連峰)が崩落し、その土砂が常願寺川を塞ぎ止めた。この塞ぎ止めた水が鉄砲水となって、下流の平野に存在する町や村落を襲う可能性が出てきたため、藩はおふれを出し避難を勧めた。そして、人々は呉羽山方面に避難した。その後、2回にわたり泥洪水が富山平野を襲った。被害は甚大で、泥洪水によって多数の人々が亡くなり、田畑は荒廃し、多くの家屋は押し潰された。

【高岡市福岡町に残る「木舟城跡(富山県指定史跡)」】

天正13年(1585年)の地震で多数の人々が犠牲となった木舟城であるが、その城跡が高岡市福岡町木舟に存在する。なお、木舟城は地震被災後ほどなく廃城となっている。

現在、城跡には公園が整備されている。周囲に田園が広がり穏やかな情景を見せ往時とは異なる風景であるが、かつて城下町が存在していたことを今に伝えている。

<参考資料>

「安政飛越地震の史的研究」、「越中安政大地震見聞録」、「庄川」、「高岡市史」、「戸出町史」、「富山県史」、「富山県福岡町木舟城跡発掘調査報告」、「富山市史」、「とやまの河川」、「白山大地震により埋没した「帰雲城」と「木舟城」」、「福岡町史」、「福岡町木舟城跡採集遺物の紹介」、等。

(櫻井 佑歩 記)

お知らせ



令和×万葉
TAKAOKA

行事予定(変更になる場合があります)

中央図書館

えほんのじかん 毎週火～金曜日
(休日を除く)
午前11時～15分程度
えほんの広場 毎週土、日曜日、休日
午前11時～30分程度
土曜おはなし会 午後2時～2時30分
第1土曜日 高岡おはなしの会
第2土曜日 図書館ボランティア
第3土曜日 チルドレンズシアター
(高岡第一学園
幼稚園教諭・保育士養成所/年4回)
第4土曜日 人形劇団どんぐりコロコロ
第5土曜日 劇団「喜び」
高岡婦人読書会 毎月第3水曜日 午後2時～

伏木図書館

こども読み聞かせ会 毎週土曜日 午前11時～
伏木読書会 第3土曜日 午後1時30分～

戸出図書館

こども読み聞かせ会 毎週土曜日 午前11時～

中田図書館

こども読み聞かせ会 毎週土曜日
午前10時30分～

福岡図書館

おはなしの部屋(読み聞かせ等) 毎週土曜日
午前11時～

最新の実施状況は、図書館のホームページを
確認するか、お電話などでお問合せください。

高岡の伝承紙芝居デジタル化事業

—新高岡市誕生20周年関連事業—

ふるさと高岡に語り継がれる民話をより広く知ってもらうとともに、子どもたちへのふるさと教育の推進につなげるため、旧高岡市及び旧福岡町で作成された伝承紙芝居をデジタル化し、音声をつけて公開します。

町に伝わる民話を在住者等に直接採集し、それらをもとに紙芝居を作成したものです。旧高岡市については「高岡の伝承」(高岡市児童文化協会編著、1979年)をもとに紙芝居を作成しています。旧福岡町については、読書サークル「花野」(現在の花野読書会)と福岡児童館を利用する子どもたちにより作成したものです。

公開予定日

令和7年11月1日(土)以降順次、市公式YouTubeや「たかおか電子図書館」で公開します。

内容 ・旧高岡市「勝興寺の七不思議」「悪王子の伝説」など・旧福岡町「元取山の童子」「都わすれ」など

〔古文書関係の事業〕

○古文書解説事業

中央図書館所蔵の古文書を解説し、『高岡市史料集』として発刊しています。

○古文書を学ぶ会

中央図書館所蔵の古文書をテキストとして、近世の高岡の様子を学びます。今年度は、「視聴漫録 医事」(長崎家資料より)をテーマに取り上げ、年4回開催します。

午前10時～11時30分

(受講受付は締切しました)

○高岡市史料集解説講座

今年度は、11月29日(土)に開催予定。毎年3月末頃発刊の『高岡市史料集』の解説文に基づき解説します。「市民と市政」11月号などをご覧ください。

「高岡の魅力発信 デジタルアーカイブ事業」

中央図書館が所蔵する江戸期以降の郷土史を知るのに貴重な古文書や写真をアーカイブ化し、ホームページ上に公開しています。アクセスし易くすることで、高岡の魅力を再発見し、次世代につなげます。



高岡の
古文書資料

高岡市立中央図書館	〒933-0023 末広町1-7	TEL (0766) 20-1818	FAX (0766) 20-1819
高岡市立伏木図書館	〒933-0104 伏木湊町13-1	TEL (0766) 44-0073	FAX (0766) 44-0073
高岡市立戸出図書館	〒939-1104 戸出町3-19-29	TEL (0766) 63-1254	FAX (0766) 63-1254
高岡市立中田図書館	〒939-1272 下麻生1108	TEL (0766) 36-0054	FAX (0766) 36-0054
高岡市立福岡図書館	〒939-0132 福岡町大滝44	TEL (0766) 64-1034	FAX (0766) 64-1038